

フィリピン渡航

～2019年夏～

学生ボランティア団体fanxfun



概要

▽団体概要

学生ボランティア団体fanxfunは「楽しさで背中を押す」、「本当のニーズにあった支援を届けたい」という思いから、2016年に設立され、今年4年目を迎えた学生団体である。現在、青山学院大学の学生を中心に43人で構成され、国内部、国外部の2つの部署を設けて、神奈川県相模原市とフィリピン・セブ島にて、ボランティア活動を行っている。

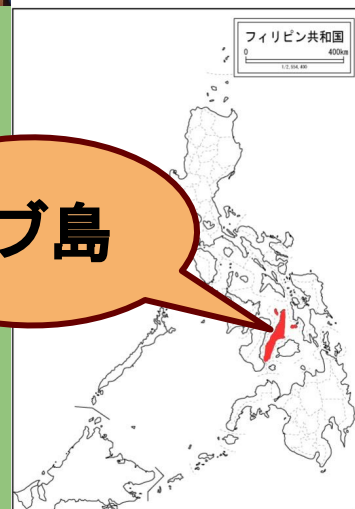
▽渡航概要

日程:2019年8月6日から2019年8月14日

メンバー参加人数:22人

内容:教育、地域開発、文化交流、調査

場所:フィリピン・セブ島セブ市・タリサイ市



Steps to Dreams

▽場所:セブ市 ZEPATERA小学校

▽日時:2019年8月13日(火)

▽目的:将来なりたい姿ややりたいことを想像し、薬物に走ったり怠情になったりせずに、自分の夢に向かってもらうこと

▽目標:夢を目標に変え、今すべきことに気づいてもらうこと

▽内容

- ①動画を流す…日本の子供が自分の夢を発表する動画を視聴してもらう
- ②すごろく作成…夢とその夢をかなえるために必要な手段を一人ひとり書き出してもらう
- ③共有…夢を共有することによって、新たな夢や必要なステップを知ってもらう
- ④すごろくゲーム実施



▽結果

自分の理想の将来像とそれに近づくために必要なこと、今すべきことを考えてもらえた。プロジェクト後に行ったアンケートでは、プロジェクトを通じて、47人中46人が夢への具体的なイメージを持ち、47人がモチベーションを高めることができた。子どもたちからのコメントの一つに” This program is so fun. It really motivate me to achieve my goal in life”があった。このことから、今回得た「気づき」をもとに、一步一步着実に理想の将来像に近づいていこうと言える。今後の展開としては、より夢へのプロセスを明確化できるようにしていきたい



好き's BOOK

- ▽場所:セブ市 ZEPATERA小学校
▽日時:2019年8月12日(月)
▽目的:フィリピンのスラムにはあらゆる誘惑があるが、それに惑わされ、道を外れないように、「好き」を大切にしてもらうこと
▽目標:自分の今の好きに気づいてもらうこと

▽内容

- ①絵本読み聞かせ…スイミーを読み聞かせをすることによって、個性を尊重することの大切さに気づいてもらう
- ②絵本作成…一年ごとの思い出を絵にしてい
- ③グループに分かれて共有
- ④クイズ…グループごとに共有した好きなことの中からサイレントジェスチャーで表現し当てる。その当てる速さを競う

▽結果

子どもたちに自分の中にある「好き」に気づいてもらうことができた。具体的に、プロジェクト後参加者44人中21人にアンケート調査を行った結果、「好き」に気づくことができた生徒は21人全員であった。また、生徒の中には、“i learn to my suki that I will still remember doing on elementary and impress of all our doings and my impression is happy.”こういった感想を持つ子どももあり、少なくとも1人の生徒には行動の指針となるきっかけを与えることができたと言える。だが、「好き」なことをこれからの人生の行動指針としようと思えることができた生徒は一部であった。これを踏まえて今後の展開としては、子供たちが自分が好きだと思えるものを大事にし続けていけるように、そして好きなことが生きる上での軸になるようにサポートしていきたい。



絵本読み聞かせ



絵本作成



ジェスチャーゲーム

住民の声再現プロジェクト

▽場所:ロレガ

▽日時:2019年8月13日(火)

▽目的:綺麗な街を作り、不衛生がもたらす悪影響を防ぐこと

▽目標:ゴミをゴミ箱に捨てる習慣をつけること

▽内容

①マルバツゲーム…ゴミ問題の深刻さをクイズ形式で出題

②ポスター作り…自分の思い描く理想の街を描いてもらう

③ゴミ拾い…実際にゴミ拾いをすることによってゴミ箱が設置されているにも関わらず、
落ち

▽結果

フィリピンのゴミ問題について考えてもらうことができた。特にロレガの街で実際にゴミ袋を持って行ったゴミ拾いでは、子供たちが積極的に率先してゴミを拾ってくれた。また今回初めてロレガの行政と話し合いを行えたことにより、今後プロジェクトを進めるにあたり新たな第一歩を踏み出せたと言えるだろう。

全ての子供がある程度のフィリピンのゴミ問題に対する知識を持っているようであった。そのため今後は現地の方々と綿密に連絡を取ることに
より、より住民のニーズに沿ったアクティビティを企画することが重要である。ロレガ全体の意識を改革するためには大人を巻き込む必要があると感じた。今回の渡航ではロレガでゴミを拾うアクティビティを行なったが、ゴミを捨てることを習慣化させることまで今回は至らなかったため、今後実際に習慣を定着させるワークショップを行いたい。



寄付

MARS

3200ペソ



TSK

8000ペソ



Biasong elementary school

8000ペソ



spring of hope Christian
fellowship

7500ペソ

